

競技力向上を図るための新たな指導環境の構築を目指して

山形県立鶴岡北高等学校

今 田 信 吾

## 1. はじめに

山形県高体連では、高校スポーツの競技力向上と質の高い指導者の育成を図るために、これまでに競技力強化5ヵ年計画(平成13～平成17年)をはじめとし、第1次強化6ヵ年推進計画(平成18年～平成23年)、第2次強化6ヵ年推進計画(平成24～平成29年)において成果を上げてきた。そして現在、第3次強化3ヵ年推進計画(平成30～令和2年)のもと、選手強化、指導者育成、大会の充実、組織の充実、関係機関との連携を5本柱として強化を図っている。しかし、少子化が加速し、本県では平成(30年間)に約2万人の生徒が減少した。その影響は部活動にもおよび、部員数は減少傾向が続き、部の存続が危ぶまれる競技が増えていることから、競技の普及に目を向けなければ競技力の向上を図ることが難しくなってきたと言える。さらに、運動部活動の在り方に關する総合的なガイドラインが施行されたことで、従来までの部活動から新しい部活動への移行に多くの指導者が困惑している状況も伺える。こうした変化に的確に対応していくかなければ部活動における競技力強化は困難になっていくと考える。しかし、これまでの本県の学校教育における運動部活動が果たしてきた役割は計り知れないほど大きなものがあり、決して後退させるわけにはいかない。今ここで、われわれ指導者が知恵を出し合い、新たな指導環境を構築する中で部活動の普及と競技力の向上に向けた対策を講じていく必要があるのではないかと考える。

## 2. 研究の目的

山形県高体連研究部(以下「本研究部」と略す)では、競技力の向上を図るためにには、指導者が新しい部活動の在り方に早急に順応していく必要があると考えた。そこで、県内高等学校運動部の顧問および外部指導者を対象に指導環境に関するアンケート調査を実施し、山形県の指導環境における問題点を探ることにした。そして、アンケートの結果から本県の課題を設定し、課題を解決するための手立てを考案することで、今後の山形県における新しい指導環境の構築を進めていくための一考察として研究を行うこととした。

## 3. 研究方法

### (1) 方法

- ①アンケートによる調査
- ②YAMAGATAドリームキッズの取組み状況
- ③その他(山形県教育委員会による各種調査結果等)

### (2) アンケート調査について

- ①平成30年度 山形県内高等学校全日制(依頼数:61校)

- ア) 運動部顧問で専門的指導ができる教員
- イ) 運動部顧問で専門的指導ができない教員
- ウ) 学校長が認める外部指導者

- ②質問の内容

性別、年齢、出身地、職業、種目、指導歴、競技・指導実績、指導上重視していること、指導上の嬉しいことや悩み、練習参加状況、ライセンス取得、中高連携、ガイドラインの賛否・意見要望

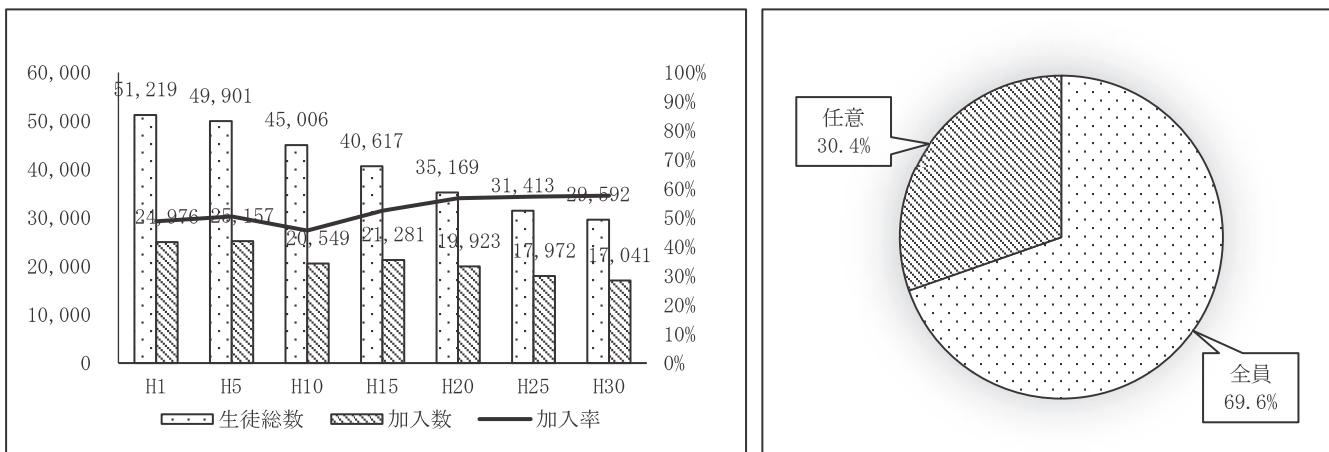
- ③調査期間 平成31年2月末～3月末

- ④回答数合計(1,332名)

- ア) 運動部顧問で専門的指導ができる教員(638名)
- イ) 運動部顧問で専門的指導ができない教員(531名)
- ウ) 学校長が認める外部指導者(163名)

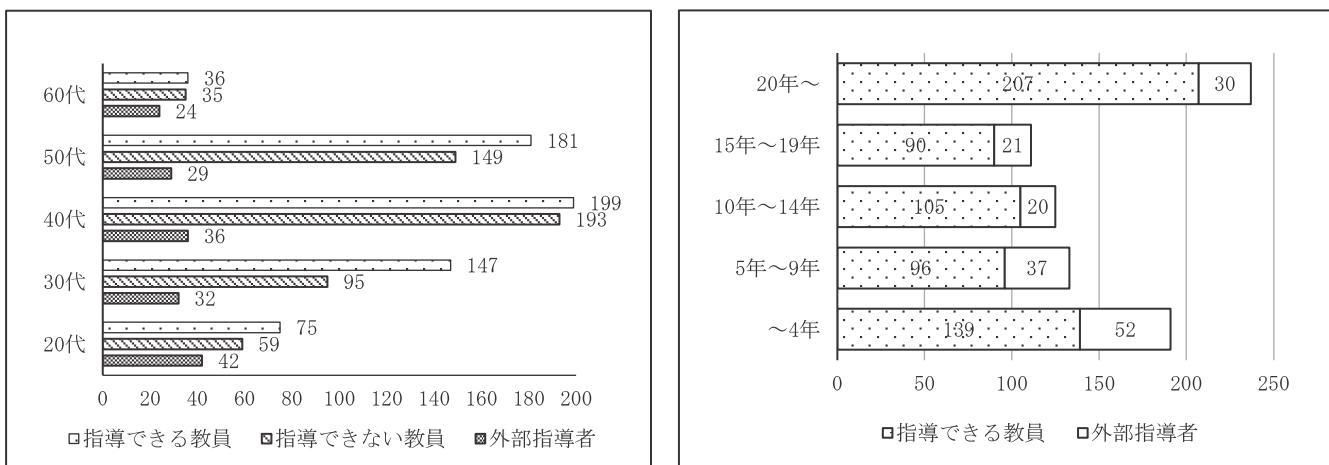
#### 4. アンケートの集計結果

##### (1) 平成における生徒数と運動部活動加入推移について



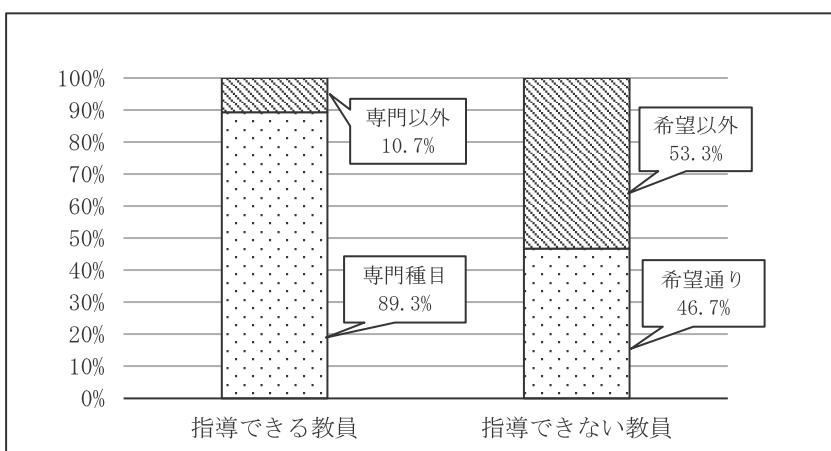
平成30年間で生徒数は約2万人、部活動加入数は約8千人減少しているが、部活動の加入体制において約7割の学校が全員加入制をとっていることで部員数の維持につながっていると考えられる。しかし、今後さらに生徒は減少していくことから、部員数の維持と増員させるための対策を考えていく必要がある。

##### (2) 年齢構成と指導歴について



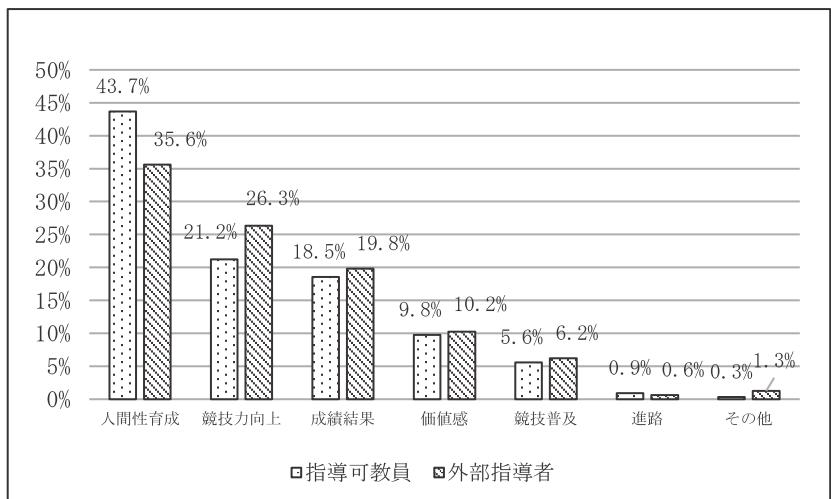
40代～50代は、平成4年のべにばな国体で（当時少年種別、成年種別）活躍した世代にあたり、指導者として教員を目指す者が多かったが、20代の専門的な指導者として教員を目指す若手が減少していることがわかる。また、20年以上の指導経験がある指導者が約3割を占め、高齢化していると言える。

##### (3) 顧問（教員）の配置について

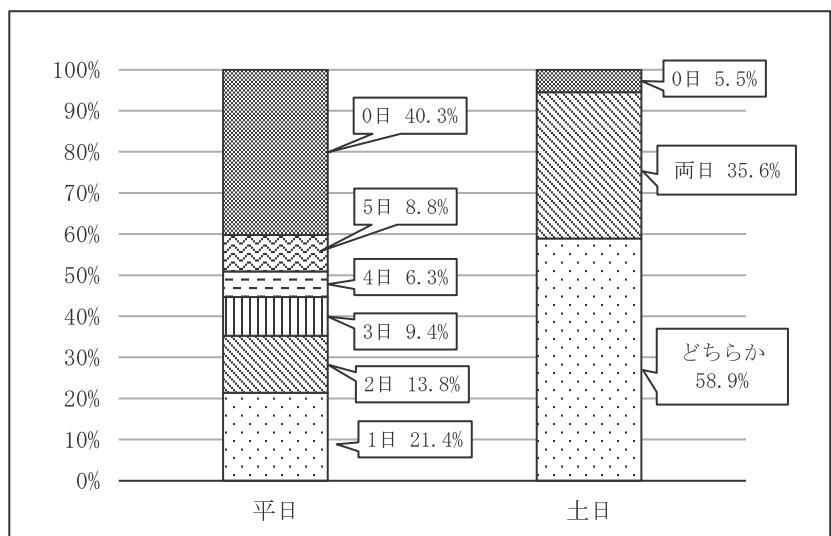


指導ができる教員でも専門種目以外を担当しているのが1割弱おり、競技力向上や部活動活性化の観点から教員の配置に関して課題があると思われる。また、指導ができない教員では、希望以外の顧問を担当しているのが5割を超えており、指導ができない教員の負担についても検討の必要があると考える。

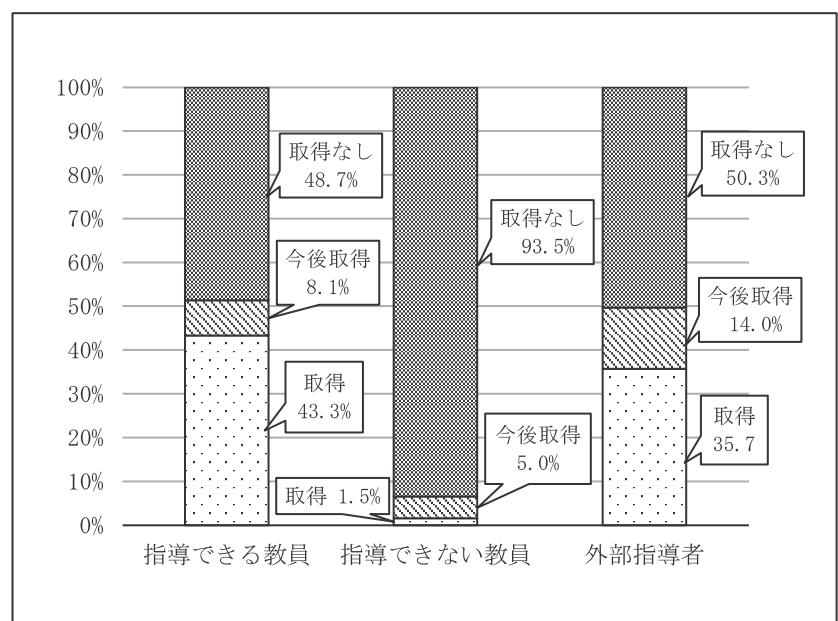
#### (4) 指導上重視していること



#### (5) 外部指導者の練習参加状況について



#### (6) 指導者資格（日本スポーツ協会公認）取得状況について

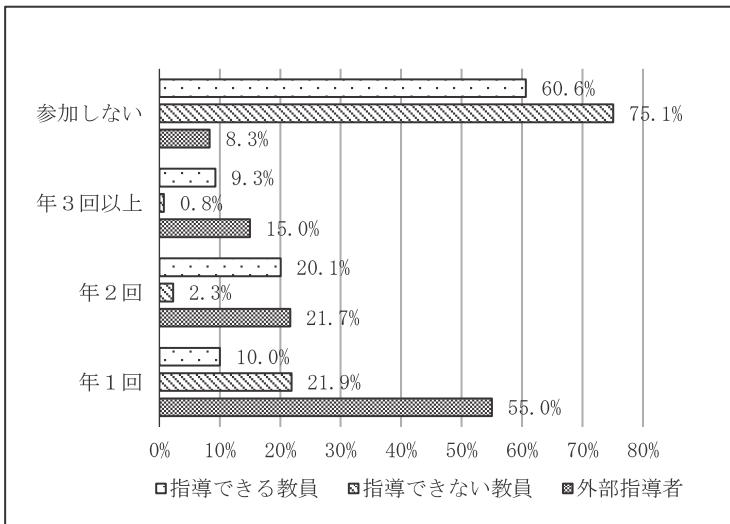


多くの指導者が、人間性の育成に重きを置いていることがわかった。達成感や挫折感から得られる経験だけではなく、努力することや我慢することの大切さ、他人への気配りなど人との関わり方、礼儀やマナーなど人として大切なことを学ぶ部活動は学校教育に欠かせないものであると言えるのではないだろうか。

外部指導者の練習参加状況を見ると平日練習に参加するのは困難な状況にあると言える。ほとんどの外部指導者が参加したい気持ちはあるが仕事の時間と部活動の時間が合わないという意見をあげていた。土日の練習もどちらか1日の指導になることが多い、練習に参加できない場合はあらかじめ練習内容を伝えたりしながら対応しているという回答が多かった。現状としては仕事をしながら部活動の指導にあたるのは難しいと言える。

指導ができる教員や外部指導者でも半数が取得していない。理由としては、高体連の大会は監督の資格取得が義務付けられていない、受講料の負担が大きい、忙しくて時間がないという理由が多かった。指導できない教員ではほぼ取得していない状況で、転勤で同じ種目の顧問になると限らないという理由が多かった。一方で、指導ができないくとも競技の理解や選手の力になりたいという思いから資格を取得している熱心な顧問がいることがわかった。

#### (7) 指導者講習会への参加について

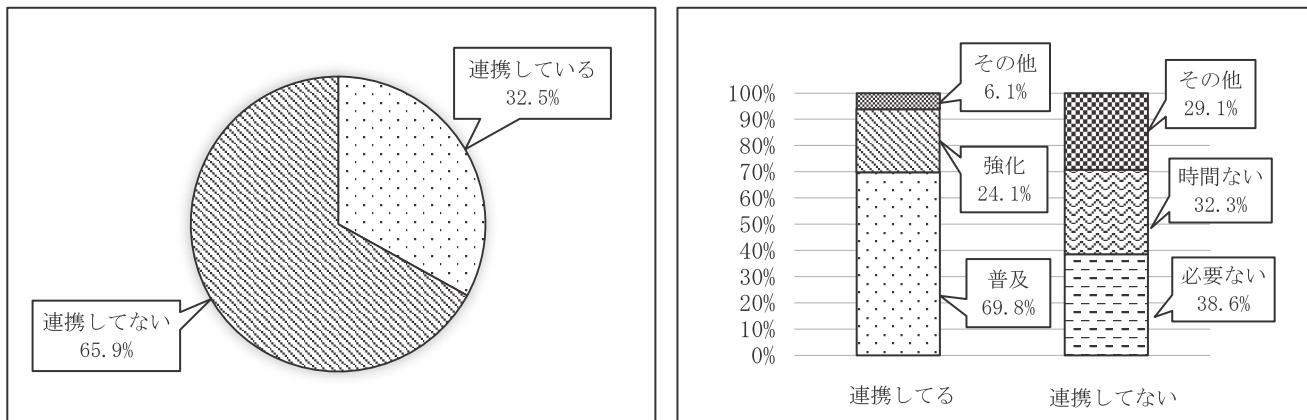


①専門的指導ができる教員および外部指導者が参加していない理由→時間や経済面（受講料、道具、テキスト代など）での負担、校務の多忙化など

②専門的指導ができない教員が参加していない理由→時間や経済面（受講料、道具、テキスト代など）での負担、技術面の指導は外部指導者に一任している、数年で担当する部活動が変わってしまうなど

③専門的指導ができない教員が参加している理由→自らの指導力の向上、競技や指導方法の理解など

#### (8) 中高連携について



連携している目的としては普及が約7割を占めていた。中高一貫の強化対策としては積極的には行えていないと言える。また、連携していない理由としては必要性や時間がないという理由が多かった。その他の中には中学校に種目がない、顧問や指導者のつながりがないという理由もあった。競技力向上の観点からすると、中学校側と情報交換の場を設定し積極的に情報交換会を行うことが必要だという意見が多くあげられた。

#### (9) YAMAGATAドリームキッズについて

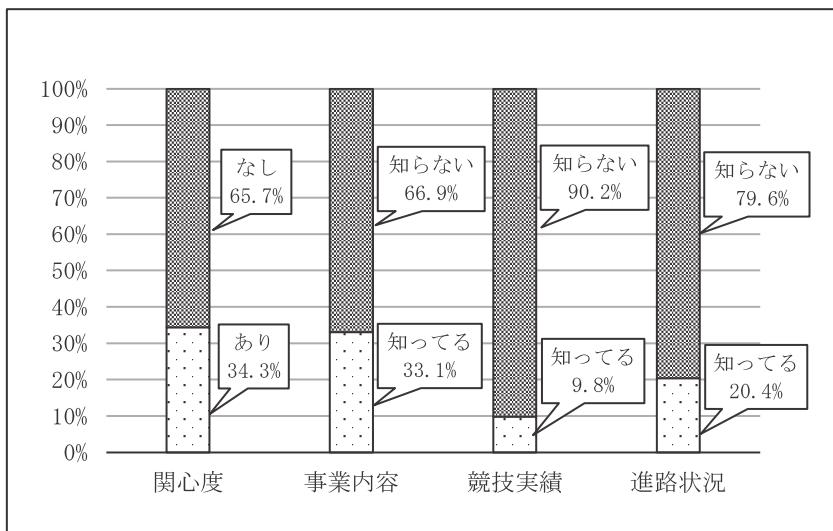
##### ①ドリームキッズの事業概要

1. オリンピックや国際大会などトップレベルで活躍する選手の輩出を目指す。
2. 世界レベルの大会で活躍できる選手を目指す子どもたちの夢の実現に向け、リーダーとしての資質を高め、本県の次世代の牽引役として育成する。
3. スポーツのみならず、社会適応能力、人間性、国際性などを備え持つ子どもたちの育成をする。
4. プレゴールデンエイジ時期（～8・9歳）にスポーツの楽しさを伝え、体力の向上並びに人間性をも培う。



平成22年度からスタートし、令和元年度で10年目となった。

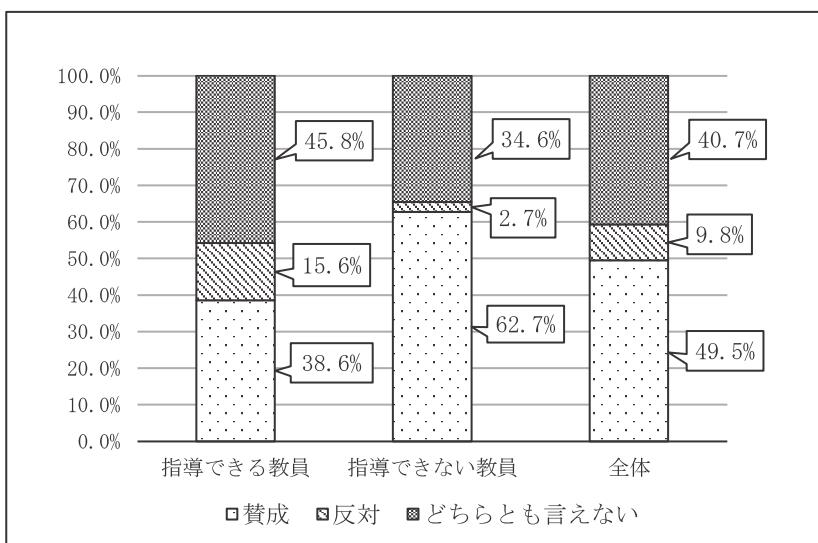
## ②顧問および外部指導者によるドリームキッズの認知度



ドリームキッズは部活動との関連性がないこともあり、ドリームキッズに対する興味関心は低い数値を示した。

本研究部では、ドリームキッズと中高の部活動が連携を図ることで本県独自の年代別・段階的な育成が可能になるのではないかと考えた。より多くの子どもたちが段階的な育成が可能となることで、本県におけるスポーツ界全体の競技力向上を期待できることから検討する必要性があると思われる。

## (10) 山形県における運動部活動の在り方に関する方針（ガイドライン）について



ガイドラインの内容については、賛成が半数であったが、反対は低かった。どちらとも言えない回答の中には、概ね賛成よりの意見が多かった。

主な意見としては、働き方改革の観点からすれば有効な施策であるという意見は多かったが、競技力向上の観点から見た場合、競技の特性や学校の事情を配慮したガイドラインでなければ競技力の向上を図るのは難しいという意見があげられた。

## 5. 研究のまとめ

本研究部では、今回の研究におけるアンケート調査から得られた様々なデータと顧問および外部指導者からの回答理由を考察し、本県が抱えている課題として《競技力の向上に関する課題》と《部活動の活性化に関する課題》に分類しまとめてみた。

### (1) 本県が抱えている課題

《競技力の向上に関する課題》	《部活動の活性化に関する課題》
①指導者の確保と育成 ②専門種目の指導ができる教員の配属先 ③参加しやすい指導者講習会 ④小中高の各カテゴリーにおける連携	⑤部員の確保（やりがいや魅力ある部活動環境） ⑥ガイドラインへの対応

これらの課題を解決していくための手立てと、その手立てを講じていくことで今後に期待できる効果について以下の通りまとめてみた。

### (2) 課題解決のための手立てと今後に期待できる効果

課題	課題解決のための手立て	今後に期待できる効果
①	○部活動指導員としての採用を推進 ○部活動に係わる多忙化の解消 ○実績のある指導者と定期的な交流会を設定	・指導員を確保できる ・教員として指導者を目指す若者が増える ・成功につながるノウハウを習得できる ・指導者同士のネットワークが広がる
②	○専門種目の指導ができる学校への配属	・競技力の向上が望める ・部員数の維持や増員が期待できる
③	○指導者講習会の充実（会場分散と補助等）	・参加者が増える ・指導力の向上が望める
④	○小中高の段階的な育成方法の確立 ○プロコーチによる指導者育成	・段階的な競技力の向上が望める ・指導力の向上が期待できる
⑤	○任意加入制の導入 ○部活動環境の整備（指導者・練習環境）	・意欲のある生徒が増える ・競技力の向上が望める
⑥	○ガイドラインに対する配慮事項の検討	・競技や学校の事情に応じた部活動が可能となる ・競技力の向上が望める

また、その他としてアンケートの中で特に気になった意見や要望から、今後検討すべきと思われるものを取り上げ、現段階における本研究部としての見解を以下の通りまとめてみた。

### (3) その他の意見や要望について

意見や要望	本研究部としての見解
●部活動を地域スポーツへ移行	・移行できる条件が整っていない ・経費や時間的な負担が大きくなり特定の人だけの活動になる
●高体連主催以外の大会が多い	・競技団体と連携して大会を精選することは必要 ・シーズン制にするメリットあり
●大会引率の規定見直し	・指導ができない教員にはメリットがある

この研究で取りあげた課題においては高体連だけではなく各高等学校はもちろんのこと、教育委員会、スポーツ協会、市町村、中体連等の理解と協力を得ない限り解決していくことは難しいと考える。新しい部活動体制で動き出している今、今回の研究が競技力向上を図るために足掛かりとなり、今後さらに研究を深め追究していくものになるよう考えている。

最後に、この研究に協力いただいた本県高等学校運動部の顧問および外部指導者の方々に対し、心から感謝の意を表するとともに、この研究が、今後、山形県の新しい指導環境の構築に向けて貢献できることを願っている。